



「賑わう元旦」四季の部 銀賞
日野市 野村 明雄

山報
高幡不動尊

川澄貫主の思い出

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉 田 純 一

川澄貫主が住職になり四年目の平成四年暮の十二月一日に念願の山報を発行され、以降年四回皆さまにお届けし、本年の九月で「山報高幡不動尊」百号を迎えることが出来ました。川澄貫主も百号の誌面を感慨深そうに見つめられています。その一か月後、ご自分の役目が終わったかのように静かに息を引き取られました。私も微力ながら二十五年間職員と共に編集し育ててきた山報を今後も続けていく所存でございます。

さて、新たに迎える平成三十年は戊年です。そこで狛犬について少しお話したいと思います。

仏教はインドに始まり中国・朝鮮半島を経て、六世紀の中葉に日本に伝わりました。この時、経典や仏像とともに、仏教を守護するものとして二頭の獅子の像も伝わったとされ、これが現在、狛犬と呼ばれているものです。仏教伝来の後、神道と仏教が習合するに至り、神社や寺院を問うことなく、神仏を守るものとして境内に安置されています。

ここで、川澄貫主の小僧時代のエピソードをご紹介します。

ある時、ものすごい剣幕のお爺さんが来山されました。用件をお聞きすると「お寺の境内に、狛犬がいるのは間違っている。狛犬は神社のものだから撤去しろ」と怒鳴られました。ひととおりの話を伺ってから、私（川澄貫主）が「狛犬の高麗は、古代朝鮮のことですから狛犬は仏教文化とともに日本へ伝来したのではないのでしょうか」と反論しますと、その方は意気消沈してお帰りになりました。

お爺さんの騒々しさが襖越しに秋山大僧正の耳に入っていたようで、この顛末を報告しましたところ、その途端に「このバカヤロウ！」とカミナリが落ちました。「出会いは一生に一回しかねえんだ！人をやり込めてどうする。人と別れる時は、必ず笑って別れるんだ。てめえだって、一期一会の教えを知ってるだろう！」とそれはひどく叱られました。

【平成二十七年愛宕薬師フォーラムより抜粋】

川澄貫主が先代の薫陶を守り「命の洗濯のできるお寺」を目指して二十九年の間を歩まれたことと同様に、私も、「ゆつくりと一日楽しめる・また来たくなる寺」づくりを継承して参りますので、皆さまのより一層のご支援をお願い申し上げます。

お不動さまの心——(九十九)

現代の世相から (59) 廣澤隆之

私の住持する寺は八王子の山の中にあります。交通の便がよくないだけに自然環境に恵まれた場所です。このような山寺ですが、ここでも檀信徒の皆さまと接すると、さまざまな人生模様を知り、学ぶことができます。

この寺に縁のあった方が社会的にも成功し、名古屋地区で繊維会社を興し財を築いてのちに引退し鎌倉に住んでいました。今は寺の墓地に眠っております。その方の家族の身の回りを親身になってお世話していた女性がいます。高齢ですが今も存命で、故郷である兵庫県の丹波にお住まいです。その方も大変心深い方で、かつてお世話していた方々の祥月日が近づくと電話をして塔婆の建立を申し込まれます。もちろんご自分のところの仏壇では毎日のご回向を欠かしたことはありません。

先日、電話があり、亡くなった奥さまの命日の塔婆と好きだった和菓子をお供えしてほしいとの依頼を受けました。私も電話ではありますが、老いた身を労るような話をして、ご回向を

快く引き受けました。ちょうど川崎大師でお話をする機会がありましたので、出向く途中の横浜の百貨店に立ち寄り、お供えの菓子を求めました。和菓子では定評があり、味も気に入っている老舗を選びました。

そのお店で亡くなった奥さんが好きそうな菓子の日持ちを尋ねると五日くらいとのことでした。ご回向の日がちょうど五日後なので、このまま買って帰るわけにはゆかないと思い、四日後の期日指定で配送をお願いしました。そしてその当日の夕方、明日の朝のご回向のお勤めに間に合うのか確認のため配送センターに電話で問い合わせました。すると伝票が届いていないので直接販売店に問い合わせるよう指示されました。そこで伝票に記された電話番号を確認し、買った横浜の百貨店の販売店に電話をしました。その段階で伝票を確認してみたのですが、私の不注意でもあり、店頭販売し、伝票を記入した担当の方のミスでもあるのですが、配送日がちょうど一ヶ月ずれて記入されて

いました。このような事情を販売店の責任者と思われる女性に説明したところ、たいへん恐縮され、今から商品をお届けたいというので、私はたいへん驚きました。詳細の真偽を確認するためにはいろいろと質問されると予想していたのですが、何と暗くなつた夕方、横浜から八王子の山奥まで数千円の商品を直接届けにくるという申し出にはこちらが恐縮してしまいました。そこで私は急いで来ると思わぬ交通事故故も懸念されるという言い訳をして、丁寧に申し出を断りました。そして現金を返却してもらうことになりました。ところが、現金をもって後日お詫びにくるというのです。このことにも驚き、恐縮しました。そこでそれも断り、現金書留で送ってもらうことになりました。

私はこの老舗の和菓子屋の接客態度にたいへん感銘しました。伝統を大事にする商売には古い時代の職人たちの職業倫理が生き続けているのではないかと思います。



江戸時代 天馬車

そこで念のためにインターネットでその老舗のホームページを閲覧してみました。室町時代に京都で創業し、東京遷都に従って東京にも進出し、今では港区の赤坂を拠点に全国のみならず、海外にも事業を展開していることが分かりました。しかも京都の時代からの歴史的資料を大学と提携しきちんと記録に収

めて公開し、さらには和菓子に関する学術的な機関誌も発行しているのです。このように職人技が日本文化に果たした役割をしっかりと歴史のなかで検証し、そして新しい味の開発を進めている根本には職人のものづくりの魂が息づいているといえるでしょう。

現代社会での倫理観の喪失が嘆かれて久しく、私もこのコラムで何度もそのことを書いてきました。しかし思わぬことから私は古い伝統を現代に活かす商売を行う会社の中に、かつての日本人が当然のこととしていた気高い職業倫理が減ることなく息づいていることに感動しました。わたしにとっては美味しい菓子よりも上等なものを味わわせてもらった感じがしました。ご回向には代用の菓子を供えました。求めた菓子を仏前に供えることはできませんでしたが、もつと美味なる魂をお供えできたように思い、清々しく読経をし、ご回向ができました。早朝の冷え切った本堂の空気に寒さよりも爽やかさが感じられ、山寺での一人でのご回向には供えられることがなかった菓子の魂も来集していました。仏さまのはからいにより、さまざまなのふれ合ひでありがたい体験をすることができました。これも生きていくことの幸せなのでしょう。

- 廣澤隆之先生のプロフィール
- 大正大学名誉教授
- 浄福寺住職

ご奉納御礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。

(敬称をすべて省略させていただきます)

品名 刀 一振

長さ五一・四cm

奉納者 武蔵野市 平 和明



境内整備緑化資金

寄進者芳名

(平成二十九年八月一日〜十月三十一日)

日野市 遠藤 和子

名

幟旗奉納者芳名

(平成二十九年八月一日〜十月三十一日)

日野市 堀 久子
八王子市 海老澤 信一
横浜市 戸松 從伊

高幡いきもの曼荼羅

三万坪を誇る高幡不動尊境内では、四季を通じて様々な自然の営みを感じることが出来ます。秋から冬にかけては色鮮やかな紅葉が山を彩り、又様々な動植物が冬仕度にいそしみます。夏の間活躍した昆虫たちは冬籠りの準備をし、夏の鳥はいつしか冬の鳥に入れ替わります。植物も同様に冬の様相を呈します。黄色い石路の花が咲き始めると誘われるように紅葉が色づき、弾けたようなハツ手の花が咲く頃には山はすっかり冬景色。葉を落とした木々の枝に可愛いエナガが群れるのもこの頃です。冬至が近づき、影が深くなった境内にはモズの鳴き声が鋭く響きます。川澄前貫主が生前に詠まれたモズの句をご紹介します。

百舌鳥高音塔に寄り添う松の秀に 祐勝

ひがん花球根

奉納者芳名

(平成二十九年八月一日〜十月三十一日)

日野市 三宅 基治

花木奉納金

寄進者芳名

(平成二十九年八月一日〜十月三十一日)

日野市 南観光交通株式会社
代表取締役 中澤 洋
彦根市 西澤 政男
(三回)
彦根市 西澤 加奈子

千体地藏尊

奉安者芳名

(平成二十九年八月一日〜十月三十一日)

三〇〇個 日野市 粕谷 清司

大提灯奉納者芳名

(平成二十九年二月一日〜十月三十一日)

二体 立川市 太田 滋子
調布市 久山 和恵
府中市 持田 文眞
東大和市 鈴木 光紀

中野区 黒澤 功記
昭島市 高幡不動ござれ市
多摩市 高橋 和彦
日野市 下田 孝治
日野市 日野市俳句連盟
八王子市 中津 満壽美

モズ(雌) 山内八十八ヶ所にて



エナガの水浴び 愛宕池にて



曼珠沙華～今年も綺麗に咲きました 9/23

高幡不動尊 フォトニュース



健やかに～七五三祈願 11/5



関東三十六不動霊場巡拝～
川崎大師平間寺ご一行様 10/4



大般若転読会 9/28



遍照講多摩連合会講習 吉岡光雲先生 11/16



日野市観光協会研修会～宝泉寮にて 9/22



落語を堪能したブルーライトアップ寄席 11/11



勝五郎生まれ変わり物語「平田篤胤の世界」 10/7



花塚にお供えしました～花塚供養 11/23



嵯峨御流華展 11/23



巖正に～菊まつり審査 10/25



力を合わせて～おみがき 9/25



防災の日～保育園児らの避難訓練 事務局前にて 9/1

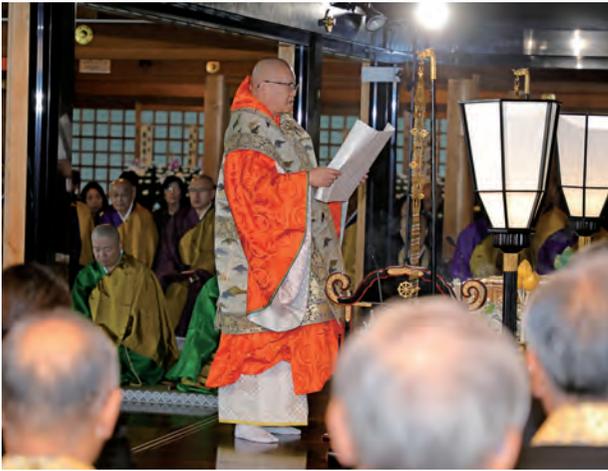
川澄祐勝貫主ご遷化

當山第三十三世貫主川澄祐勝大僧正が、去る十月十日世寿八十七歳にて遷化いたしました。

早速、大本山成田山新勝寺橋本照稔御貫首様、大本山高尾山薬王院大山隆玄御貫首様、別格本山大須観音寶生院岡部快圓御貫首様をはじめ御寺院様、檀信徒の皆様にご弔問をいただき、通夜は十月十七日、法類幡山会会長清水博雅大僧正に密葬儀は十八日、大本山川崎大師平間寺藤田隆乘御貫首大導師のもと、総本堂大日堂に於て勤修致しました。密葬儀にもかかわらず千名を超える多勢の皆様にご参列・ご焼香いただき誠に有難うございました。

尚、本葬儀は平成三十年三月十六日、真言宗智山派管長・総本山智積院化主小峰一允猊下大導師のもと執り行います。

※遷化…せんげ菩薩が教え導く場所を他の世界にうつすこと。



大導師 大本山川崎大師平間寺
御貫首 藤田 隆乘 大僧正



法類出仕の枕經 (10/13)

密葬儀をお勤めいただきました大本山川崎大師平間寺御貫首藤田隆乘大僧正の嘆徳文をご披露致します。

嘆徳文

夫れ密かに惟んみれば、阿字本源の春の花は青蓮不染の夢に開き、常在靈山の秋の月は影を五濁の水に隠す。

六大四曼の光明は生死無明の長夜を照らし五相三密の観念はよく證智円明の水に浮ぶ。

爰に大円寂、別格本山高幡山明王院金剛寺第三十三世貫主、川澄祐勝大和上は、昭和六年一月一日、埼玉県秩父郡皆野町に出生せらる。長じて法政大学に入学し経済学を専攻、螢雪の功を積む。卒業後、昭和三十一年五月、法縁ありて金剛寺に入寺。昭和三十二年二月金剛寺道場に於いて秋山祐雅大僧正に随い得度、同道場にて幸心流四度加行を修し、昭和三十五年四月六日、総本山智積院道場において入壇、以降所修の行位を累ねらる。金剛寺に在りては、総務部長・執事・執事長を務め、その後

平成元年十一月十四日、第三十三世の法灯を継承せらる。晋住以来、先代秋山祐雅貫主の遺志を継がれ、精励恪勤して

諸事業を推進、則ち重要文化財丈六不動三尊の修復、並びに身代り丈六不動三尊の造立開眼、宝輪閣・奥殿の建立、更には大師堂・聖天堂落慶など山容整備に意を注がれ、法灯一段とその輝きを増す。

宗門にありては、宗教法人真言宗智山派責任役員、総本山智積院並びに別院真福寺責任役員、宗機顧問等数多の要職を歴任。就中、平成六年菩提院結衆、平成十九年集議席に列座せられ宗内の枢要を務む。

これら多年の功績により、智山派より総本山功労章、宗治功労章、護法功労章、真言宗各派総大本山会より密教教化賞



追甲和讃奉詠 (遍照講高幡山支部)



お通夜導師の清水博雅大僧正



木遣りの先導で出棺 (江戸消防記念会第九区)



200名のご住職による読経



不動堂前より出発



仁王門まで続くお焼香の列

受賞の栄誉に浴す。

和上、法務専一に精励する傍ら俳句を親しみ、『風鐸』『四季を樂しむ』など、多くの句集を上梓される。また、『叱られる幸せ』を公刊し、各所で講演、広く世間に慈悲を回らす。これら多年にわたる教化活動の功により、平成十九年二月、本宗布教師最高位の弘教に任ぜらる。多方面にわたる活躍は、信望と慈愛あふるる人柄の所以なり。

和上、資性英邁、進取闊達にして、学徳、識見ともに卓越し、行くとして可ならざるはなき逸材と謂つべし。日々に不動明王の奴僕行を体し、克く善男善女を教化して明王の靈光を顕現發揚す。不滅の徳行は永く、高幡山金剛寺の歴史に輝き、遺芳万代を照らさん。洵に教界の龍象、密門の法將たり。

然りと雖も、無常の颯風に襲われ、忽然として寂を示さる。嗚呼悲しい哉。時に法寿八十七歳、法臘六十年なり。

本日、高幡山金剛寺道場を莊嚴して密葬儀を修するにあたり、有縁の故に小衾を屈して回向の導師とせらる。

願わくは、尊靈大空位に遊歩せられて、本不生の大我を証得し、永えに密嚴華藏の淨域に安住せられ、更には宗門繁栄、寺門興隆、檀信徒並びに遺族に普く慈眼を廻らし給わんことを。

乃至法界 平等利益

南無大師遍照金剛

南無大聖不動明王

平成二十九年十月十八日

大本山川崎大師平間寺貫首

大僧正 隆 乘

敬白

年末・正月・初不動・節分のご案内

◆十二月

○10日(日) フリーマーケット

○13日(水) 煤払い(午前8時)

○15日(金) 堂塔や仏さまの一年の煤を山内僧侶達が払います。お焚き上げ(午前9時)

○17日(日) ござれ市(がらくた市)

○21日(木) 月例写経会(午後1時30分 山内僧侶法話・写経)

○22日(金) 冬至星まつり(午後5時・於不動堂)

○24日(日) 千体地藏尊月例法要(午後2時法要 法話 山内僧侶)

○28日(木) 納めの不動尊・歳の市

○31日(日) 大晦日・除夜の鐘供養

○元旦・2日・3日 元朝祈願大護摩修行

元旦は午前0時、2日・3日は午前6時から大護摩修行。尚2月12日までの護摩修行は特別の時間帯になつておりますのでご注意ください。

自動車交通安全祈願

元旦は午前0時から午後7時まで、2日・3日は午前6時から午後6時まで。

○元旦(日) 日野七福神めぐり(朱印受付)

○14日(日) フリーマーケット

○15日(月) 厄除牛王宝印々可(於不動堂)

弘法大師御作と伝わる秘印のお加持が受けられます。息災延命・頭痛除けの霊験が知られています。

○21日(日) ござれ市(がらくた市)

日野七福神めぐりのご案内

新春恒例となりました日野七福神めぐりを左記の通り実施致しますので皆様方お誘い合わせてご参詣下さい。尚、ご朱印につきましては『日野七福神めぐり色紙』をおすすめ致します。

記

一、実施期間 平成三十年一月一日～七日

一、ご朱印受付時間 午前九時～午後四時

一、七福神色紙 一枚 三〇〇円也(各寺院にあります)

一、ご朱印料 一印 三〇〇円也

※実施期間・時間にはくれぐれもご注意ください。

○布袋尊 宗印寺(平山)

○大黒天 善生寺(豊田)

○寿老尊 延命寺(川辺堀之内)

○弁財天 高幡不動尊(高幡)

○毘沙門天 安養寺(万願寺)

○福祿寿 石田寺(石田)

○恵比寿天 真照寺(落川)

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

多摩都市モノレール石田駅より徒歩五分

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

多摩都市モノレール石田駅より徒歩五分

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

多摩都市モノレール石田駅より徒歩五分

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

多摩都市モノレール石田駅より徒歩五分

多摩都市モノレール万願寺駅より徒歩五分

多摩都市モノレール石田駅より徒歩五分



◎ほのほうちわ授与

○厄除・交通安全のほのほうちわは元旦から節分までお頒けいたします。 一体 五〇〇円也



◎元旦護摩のお受け取り場所について

十二月三十一日までにお申込みいただきました元旦護摩はすべて元旦の一番護摩で祈願致します。お札のお渡しは午前二時頃からです。

一～三日 客殿二階洋間

四日以降 宝輪閣地階

になりますのでご注意ください。

- 21日(日) 初大師・月例写経会(午後1時30分 山内僧侶法話・写経)
- 24日(水) 千体地藏尊月例法要(午後2時法要 法話 山内僧侶)
- 26日(金) 文化財防火演習(午前9時)
- 28日(日) 初不動大祭

法話 泉蔵院 住職 鈴木公道先生
稚児行列(おねり)(午後2時)

だるま市 関東各地のだるま屋さんの威勢の良い掛け声が飛び交い、十万人の人出で賑わいます。

- 31日(水) 豆煎り式(午前10時)
幼稚園児や参詣の方々と節分の福豆を煎ります。

◇二月

- 3日(土) 節分豆撒式・だるま市

豆撒式は午前10時から5回。合計約一、〇〇〇人の年男が招福を祈り豆を撒きます。芸能人・タレント多数参加。尚、どなたでも申込みにより年男として参加できます。又節分会員になっていただき、お札、お供物を受けることもできます。

- 11日(日) フリーマーケット

- 15日(木) 涅槃会(午後1時・於大日堂)

お釈迦様が涅槃に入られた日。お釈迦様を追慕し仏恩に感謝する法要を行います。

法話 新照寺 住職 渡邊 章敬先生

演題「お釈迦様最後の教え―苦から楽へ―」

お焚き上げ(午前6時・9時)

- 18日(日) ござれ市(がらくた市)

- 21日(水) 月例写経会(午後1時30分 山内僧侶法話・写経)

ござれ市(がらくた市)

- 24日(土) 千体地藏尊月例法要(午後2時法要 法話 山内僧侶)

- 28日(水) 月例祭(ご縁日)

豆撒式年男のご案内

◇御本尊不動明王の御宝前に於て攘災招福立春大吉の大護摩供を奉修し併せて盛大な豆撒式を執り行います。年男としてご参列いただきたくご案内申し上げます。

一、日 時 二月三日(土)

第一回 午前10時 第二回 午前11時

第三回 午後一時 第四回 午後三時

第五回 午後四時

一、式 場 不動堂及び宝輪閣二階

一、冥加料 金三万円也

※裃は当山でお貸し致します。

尚 豆撒終了

後の祝宴会場

は本坊三階大

広間でございます。

ます。



節分会々員のおすすめ

◇節分当日は早朝から会員の皆様の七難即滅・七福即生の守護摩をご修行致しますので、奮ってご参加下さい。

一、会員には、特別会員(冥加料 一万円)があります。

会 員(冥加料 三千元)

一、当山事務局にて節分願主名簿にご記入し、引替証をお受け取り下さい。

一、立春大吉の護摩札と福豆、供物等をお受け致します。

(参加申込み 二月三日 午後四時まで)

◎お護摩札郵送について

お護摩札郵送を希望される方は郵送用伝票がございますので所定事項を記入の上係までお申し付け下さい。

◎三ヶ日参詣駐車場について

今年も左記の方々のご厚意により、三ヶ日の駐車場が確保できましたのでご利用下さい。

※臨時駐車場提供の方々には多摩コース・東京南農協・さわやか信用金庫・食品のおた・日野市役所等の皆様でございます。尚、食品のおおたは二日まで。

◎初不動大祭(二月二十八日)お稚児のおすすめ

お子様がみ仏にお稚児として奉仕いたしますと身体安全・無病息災のご利益が得られると伝えられています。

○適齢は三歳〜七歳位

○冥加料 七千円

詳細は高幡山事務局まで

☎〇四二五九一・〇〇三二代

第四十七回(十月二十八日～十一月十七日) 高幡不動尊菊まつり

多摩菊花会

福島 正信

上位入賞者(敬称略)

第四十七回高幡不動尊菊まつりが関係各位のご協力とご尽力により盛大に開催が出来ましたことに御礼申し上げます。

今年例年になく一年を通じて菊作りにとって大変苦難の年でありました。九月以降も残暑や雨の日が続く、菊の生育に日照不足による影響を受けて、菊栽培をされている菊愛好者の方々はご苦労されたと存じます。その厳しい気象環境にも関わらず数多く出品を頂き、高幡不動尊に来た方々に鑑賞して頂きました。十一月五日・十三日に審査が行われ、次の方々が上位入賞されましたので、ご紹介いたします。

○内閣総理大臣賞
盆養・太管・泉郷卒寿竜
八王子 和田 益男

○文部科学大臣賞
盆養・厚盛・国華金山
日野 西野圭永子

○農林水産大臣賞
切花・厚盛・国華金山
東大和 木村 吉璋

○厚生労働大臣賞
切花・厚盛・彩胡宝寿
東大和 田中 誠

○環境大臣賞
競技花盆養・管物・彩胡夢路
町田 細谷 和正

○東京都知事賞
盆養・細管・天女の名所
国分寺 小峯 由彦

○日野市長賞
盆養・ジャンボ福助・国華金山
東大和 木村 吉璋



内閣総理大臣賞 和田益男



文部科学大臣賞 西野圭永子

切花・太管・泉郷情熱
立川 阿部 良子

○八王子市長賞
盆養・福助厚物・国華金山
東大和 木村 吉璋

○立川市長賞
盆養・厚走・国華聖者
町田 細谷 和正

○府中市市長賞
盆養・ダルマ厚物・国華越山
国分寺 小峯 由彦

○昭島市長賞
切花・新花細管・彩胡水晶
東大和 田中 誠

○小金井市長賞
切花・一文字・玉光院
日野 西野圭永子

○小平市長賞
切花・厚走・新潟の金華
国分寺 須崎 志郎

○国分寺市長賞
盆養・盆栽石付・野知の寿
国分寺 須崎 志郎

○東大和市長賞
切花・新花管物・彩胡水晶
日野 西野 正人

○武蔵村山市市長賞
切花・間管・泉郷富水
八王子 和田 益男

○多摩市長賞
盆養・一文字・玉光院
八王子 和田 益男

○町田市市長賞
切花・間管・彩胡夢美
八王子 和田 益男

○日野市議会議長賞
盆養・間管・瀬戸ノ鷹
八王子 和田 益男

○全菊連会長賞
切花・新花厚物・彩胡大満月
国分寺 須崎 志郎

○高幡不動尊賞
競技花盆養・厚物・国華白日
八王子 石坂 義雄

○大会会長賞
切花・一文字・玉光院
八王子 松崎 隆一

○審査委員長賞
盆養・盆栽地植・みかど
国分寺 須崎 志郎

○富士電機株賞
盆養・福助管物・彩胡夢路
多摩 佐藤 勝

○富士旅館賞
切花・新花ジャンボ・彩胡舞妓
日野 志村 進一



高幡不動尊賞 西中国人

○理事長賞
盆養・三色花壇・金山・越山・強大
国分寺 小峯 由彦

○日野市商工会会長賞
競技花切花・細管・彩胡清純
町田 榎本ユキ子

○読売新聞社賞
切花・キング間管・彩胡灯明
八王子 和田 益男

○京王電鉄賞
切花・太管・泉郷情熱
八王子 松崎 隆一

○コニカミノルタ賞
盆養・ダルマ管物・開電秋峰
立川 阿部 良子

○東京南農業協同組合長賞
競技花切花・厚走・国華雅楽
八王子 和田 益男

○日野自動車賞
切花・大掴・斗南の月
日野 西野圭永子

諸行事に参加して

(敬称略)

秋季大祭記念法話 (9/28) 「ご供養の心」

東覺寺ご住職

小宮 一雄先生

豊島区 石井 明美
一つ一つ丁寧にお話しいただき今まで気が付かなかった
想いや気持ちを変えて感じる
ことができました。

ありがとうございます。

船橋市 佐々木智恵子

毎年、法話も楽しみにし、
お不動様を身近に感じながら
出席しています。昨年姉が他
界し一緒に来られなくなりま
したが、共に参加している気
持ちになれます。境内のあち
らこちらに、いつもお花が美
しく供えられているのを見る
たびにお花講に入っていて良
かったと思います。

水の交換、お花のお手入れ
ありがとうございます。

府中市 寺田三知代

大変わかり易く、面白く、
為になるお話でした。一時
間あつという間でした。あり
がとうございました。

国立市 黒川 典子

本日は東覺寺ご住職小宮一
雄先生より「ご供養の心」の
ご法話を拝聴させて頂き誠に
ありがとうございます。

お花をあげさせて頂いてあ
りがたい、仏さまに生かされ
ている自分を感じる事ができ
ました。先生のお話を生活の
中に、ご縁のある方、家族に
優しくふれあうことで生かし
たいと思うさせて頂きました。
(レジメを作って下さった
ので大変わかりやすかった
です)



小宮一雄先生の記念法話

多摩八十八ヶ所結願(10/21・10/22)

川崎市 長嶺 優子

楽しく参加することができ
ました。功德を積んで御利益
をいただけるよう、これから

の人生を穏やかに過ごせるよ
う、自分の行いに気を付けて
健康で頑張りたいと思います。

世田谷区 関塚 普照

最初に川澄大僧正の訃報に
接し、お悔み申し上げます。
一回目から五回目まで出発の
際にお見送りいただいたので
すが、六回目の時はお姿をお
見かけしましたが、お見送り
はなかったもので、どうしたの
かと気になっておりました。

多摩八十八ヶ所巡拝、石坂
先達には本当に有難う御座居
ました。感謝！感謝！

今回初めて参加させていた
だきましたが、ほとんど貸切
状態の本堂の中で、ご本尊様
をしつかり拝しながらお勤め
をさせていただいたことは感
謝の一言です。

また、六回目(九月)の巡
拝時は十七時過ぎにも関わら
ず、お寺さんの方で待ってて
下さりお参りできたのは、ス
ゴイ！と思えました。これか
らも特色あるお参りができる
ようお祈り申し上げておりま
す。

八王子市 川幡 俊一
今年も多摩八十八ヶ所参拝
に参加して高幡不動尊の皆様



多摩八十八ヶ所記念法話
高野山真言宗 光明寺ご住職 植野法稔先生

の親切な計らいに感謝してお
ります。また、先達先生の車
中での季節毎の仏教行事説明
等々ありまして参考にしてい
ます。

各寺院の方にはお世話にな
りまして感謝、御礼申し上げ
ます。皆様ありがとうございます。
また。

東大和市 尾崎美和子

お世話様でございます。

川澄住職におかれましては
ご愁傷様でございます。八月
の出発時にお見送りいただい
たお姿が目には浮びます。

結願を無事迎えましたこと
皆様のお陰です。本当にあり
がとうございました。九月に
は智積院でも結縁灌頂を頂き、
健康に注意しながら年を重ね
たいと思います。

多摩八十八ヶ所
巡拝の募集

当山では毎年四月から十月に
かけて多摩八十八ヶ所巡拝を左
記の通り実施しております。東
京多摩地方、弘法大師ゆかりの
霊場を巡りお大師様と出合うお
遍路の旅に出かけてはいかがで
しょうか。

初めての方でも先達のお坊さ
んと共に楽しく巡拝できますの
でご知友誘い合せてご参加下さ
い。

記

一、巡拝 四月～十月

毎月第一週・ご希望
の各曜日(日・火・
木)

五月は第二週

一、会費 四九、六〇〇円

(納経料・バス代・保
険料等を含む) 分割
納入も可

一、昼食 各自持参

※詳しくは高幡山事務局内
龍華会まで

☎〇四二―五九一―〇〇三―一

萬燈会・もみじ灯路

まんどうえ

第二十二回高幡不動尊萬燈会・第十二回たかはたもみじ灯路が十一月二十二日・二十三日の両日盛大に開催されました。両日とも五重塔塔院大ホールで田中成明先生の記念法話・密厳流御詠歌奉詠・萬燈会大法要・ギター奏者 莊村清志氏の記念コンサート、五重塔初重では精霊供養法要。門前町一帯では約三千個の灯籠が一齐にもまれ幽玄な世界が広がりました。その他境内では薄茶接待・嵯峨御流華展等が行われました。



百味供付萬燈会大法要



ギターの音色に癒されました 莊村清志さん



木遣りを先頭に～江戸消防記念会第九区の皆さん



經木塔婆供養



仁王門に向かって～もみじ灯路

山内消息

自衛消防活動審査会(9/15)

九月十五日、日野市万願寺グラウンドにて、平成二十九年度自衛消防活動審査会が三部門に分かれて実施されました。当山からは、清水主任、直井、百戸、上田の四名が出場しました。練習通り全て出し切りでしたが、満足のいく結果を得られず、悔しさが残る審査会となりました。また、当山の歴史ある文化財を守るために、日々の練習、迅速な消防活動が重要であることを再認識することができました。この経験を生かし、今後の消防訓練に励みたいと思います。(上田記)



来年もガンバリます

転読会が行われ真言宗智山派前宗務総長東覺寺ご住職小宮一雄先生の記念法話を聴講し、不動堂に於て、大般若会法要に参列し懇親会場へ移動し、執事長の挨拶、会計報告を行い当山の精進料理を召し上がって頂きました。(石坂記)

不動堂にて、お護摩が始まる前の十五分という時間だったのですが、ご縁日と言うこともあり、ご参拝の方も多く高幡不動尊の歴史の重み、ご本尊不動明王様の霊験あらたかさ、ご信徒皆様の深い信心を感じながら、大変ありがた



初々しい僧侶姿の学生さん

智山専修学院生来山(9/27)

九月二十七日、総本山智積院から智山専修学院の学生十九名が徳永隆弘生徒監・青木淑人副生徒監の引率により来山しました。一行は奥殿・大日堂を拝観参拝のち大護摩供に参列しました。五重塔前での記念撮影では、総本山の修行と同じように綺麗に整列しておりました。昼食後、僧侶の卵達は一

く勉強させて頂きました。大勢のご信徒さまの前に立つだけでも緊張しましたが、耳を傾けて下さる皆さまと護摩の後、堂内を速やかに掃き清め、荘厳を整える僧侶の姿に支えられ、法話の実習をさせて頂きました。皆さまの信心に触れ、多くの学びを得る事が出来ました。

口説布教講習(10/28)

菊まつり初日、晴天に恵まれて大変な賑わいとなった十月二十八日のご縁日に、総本山教化専門科受講生二名の布教実習が行われました。松田智照師、鈴木照教師の両名は今までの研修成果を遺憾なく発揮した法話を披露し、満員の不動堂を沸かせていました。これからのお二人のご活躍をご祈念致します。(島記)

も多く、ご奉仕の方々から「喜んでもらえて良かった」と笑顔の絶えない時間でした。皆様にとっても、和服を見直す機会になったのではないのでしょうか。(吉田記)



ありがたいご法話をいただきました

密厳流遍照講 東京多摩教区連合会 講習会・検定会(11/16) 十一月十六日、ご詠歌講習会、並びに検定会が当山にて開催され六十名が参加されました。講習に際し講師に吉岡光雲先生、検定員に林智宏先生をお迎えし、「十善戒和讃」「総本山智積院讃仰和讃」の二曲を講習いただきました。「十善戒和讃」は、吉岡先生の作詞曲で、直々の講習に講師の皆さまも熱心に受講されていました。(手塚記)



着付け直しのご奉仕 装道礼法きもの学園様

装道礼法きもの学院 着付け直し

菊まつりで賑わう十一月五日と十五日、装道礼法きもの学院認可連盟三多摩支部の方々のご奉仕による、七五三の子どもさんたちの着付け直しが行われました。ご参拝の方々からも、着付けに苦労されているという声

高幡俳壇

波朗選

天 立ち話頭上の石榴赤く笑む 八王子市 清水 和美
 (評) 下五が具体的。立ち話に加わっているようだ。
 地 かなかなのひと鳴きごとの日暮れかな 日野市 益本 恒夫
 (評) かなかなは鯛。鳴き出すとすぐ日が暮れる。
 人 境内に菊咲き乱れ所狭し 所沢市 石井 淳子
 (評) 高幡不動尊の菊まつり。その賑わいがよく分かる。

佳作

長らへて故園にあそぶ秋の蝶 練馬区 大石 良雄
 高幡の護摩の太鼓や秋高し 多摩市 阿部 茂助
 城趾を埋める勢ひ天蓋花 多摩市 坂戸 啓子
 結界に入ればことさら虫しぐれ 吉川市 山田 収一
 秋風や佐渡金山の掘りし跡 日野市 齊藤 勝美
 種無し柿の歯応へなかりけり 八王子市 石川 允義
 秋蟬の鳴くや命を惜しむごと 多摩市 竹本 晃之
 鈴生りの柿そのままに主亡し 八王子市 大串 若竹
 初紅葉弁天池に舞ひ込みぬ 小平市 窪田 恵子
 突然の友の病や蟬しぐれ 日野市 益本 睦

選者吟 お手植ゑの四葩の秋芽拳り立つ

なにげなくつかっている仏教のことば―退治・対治(たいじ)

悪者や害を及ぼすものを討ち滅ぼしたり、懲らしめたりすることを「退治する」といいますが、この退治という表記は中世以後のこととされており、本来は対治が正しいです。

(対治)とは、障害となるものを退け除くことをいいますが、仏教における最大の障害とは煩惱に他なりません。すなわち、さとりへと至る修行において、その妨げとなる煩惱を断ずることを(対治)

平成四年十二月一日号の山報第一号で読者の皆様の俳句を募集後掲載が続いた高幡俳壇は、川澄貫主のご遷化により今号は俳人協会名誉会員・春耕主宰の棚山波朗先生のご好意により選をして頂きました。永年に亘り多勢の方からのご投句を頂き、誠にありがとうございました。



紅葉とシジウカラ

といいます。

これがやがて健康を害する病気を治す意へと転じ、さらに(退治)が当てられ、征伐や成敗する意として用いられるようになります。

(小林靖典)



お不動さま教えて?

ご質問 毎年十一月の二十二日と二十三日に、お不動さまで行われている《萬燈会》とはどのような法要なのでしょう? また、そのいわれについて知りたいです。どうかお不動さま教えてください。
 (前号のつづき)

お答え はい、お答えします。高幡のお不動さまでは、毎年十一月の二十二日と二十三日の午後四時から、ご法話・ご詠歌の奉詠・萬燈会・塔婆供養などの行事が山内、また門前では《もみじ灯路》が催されています。



灯明をともして

うに説かれています。ある時、祇園精舎で弟子の舍利弗が仏陀に、「どのようにに懺悔し滅罪すれば、覚ることができのでしょうか?」と質問しました。これに対して仏陀は、「速やかに覚ろうとするならば、無数の仏に對して、それらの仏の名を唱え、一万もの灯明、種種の花などをもって、仏に對し至心に供養すべきである」とお答えになったというものです。

現在、萬燈会は全国の多くの寺院で行われており、奈良では東大寺、京都では六波羅蜜寺、そして紀州高野山の萬燈会が有名です。

さて、《萬燈会》のいわれについてのご質問ですが、萬燈会とは、自身の悪い行為による罪障を滅除し清浄にするため、一万の灯明をともして、仏や菩薩に供養する法会のことです。また、ご先祖さまをはじめ、多くの御霊を供養する法会でもあります。

萬燈会をともして仏や菩薩を供養することによる功德の根拠は、いくつもの仏典に見ることが出来ます。そこでそのひとつをご紹介しますことにいたします。

『菩薩藏經』には、次のよ

は、言うまでもありません。

偈を集めて行ったのが起源とされている、京都六波羅蜜寺の萬燈会の浄火をいただき、高幡のお不動さまでは平成八年より萬燈会を行っており、そしてその精神とするところは、真言宗の宗祖である弘法大師空海が高野山で初めて行った萬燈会の際、「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きん」と高らかにお誓いになられた、お大師さまのお言葉にあること

皆様からのお便り

川澄祐勝師を悼む

日野市 益本 恒夫

去る十月十日、貫主川澄祐勝師がご逝去された。その直後偶々お不動さんを訪れていた私は、その訃報を聞き、込み上げてくる熱いものをどうする事も出来なかった。

七年前、私は大病から奇跡の生還をし、厳しいリハビリの日々を重ね、それから一年後、お不動さんの境内を毎週のように散歩する日々が続いている。古刹の雰囲気は私に生きる力と勇気を与えてくれた。時折境内を巡回しておられる師にお会いし、そのお姿はさながら生き仏の雰囲気があった。

私は五重塔の周囲をお百度と称し、四季を楽しみつつ俳句を作る喜びに溢れ、高幡不動尊は私の心のオアシスでもあった。

師は俳句にも通じておられ私は師の句集を通じていつも深い人間愛を感じており、

左記の句は私の好きな句の一部だ……。

・哲学の道遡る懐手

・かたらひの道は寺より

・数珠で嬰撫でて初護摩

・根深汁何度言うても

・濃かりけり

・終りけり



銅賞 邦昭 四季の部 渡辺 雅児行列 八王子市

そんな私に高幡俳壇の選者であられた師に、この四年で四度天の賞を頂いたことは望外の喜びだった。

受賞句

・風鈴に一句吊るして

・留守居かな

・幼な子のお代りのこゑ

・冬薔薇のこころに点る

栗こはん

赤さかな しまひ湯に袖子かき分けて 沈みけり

・しみみ味わう事も出来た。

・選句を通じて師の人生観を

・しみみ味わう事も出来た。

・そんな私の俳句観……

・俳句は合わせ鏡とも言われ

・切実な俳句を求めれば切実な

・句が生まれ、楽しさを求めれば

・豊かな句が出来る。然し俳

・句に必要なのは、俳句以前の

・全人格であり生き方だと思

・う。技術に限界はあるが、生き方

・には限界は無いのだ。究極の

・ところ人間は中途で死を迎え

・る。俳句も人格も生き方も完

・結は無い。完結が無いとすれ

・ばより一層切実で豊かな人生

・を送りたいものだ……

・数年前のこと、咲き分けの

・梅がチラホラと咲いていた早

・春の朝、私はいつもの様に境

・内を散歩していると、貫主に

・バツタリお会いした事は今も

・懐かしい思い出として胸の中

・に大切にしまっている。

・最後に師のご冥福を心から

・お祈りしたい。

・梅の香に背押されつつ

・百度踏む 哲土

御◆案◆内

交通安全祈願

午前九時～午後五時

午後四時半までにお申込下さい。

○ご祈願料 金三千元也

御護摩修行

○平日 八時・十時・

十一時半・一時・三時

○土曜・日曜・祝日

八時・十時・十一時半・

一時・二時半・四時

○但し一日、十五日の午前中は

五時・十時・十一時半

○ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時・

十二時・一時・二時半・四時

○御護摩料

金参千円也

金五千円也

金壹万円也

(大護摩) 金参万円以上

ご縁日 毎月二十八日

境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市)

毎月第二日曜日(雨天中止)

ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)

お焚き上げ

毎月十五日午前九時

毎月二十五日午後一時半

月例写経会

毎月二十一日午後一時半

千体地藏尊月例法要

毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館)

午前九時～午後四時

拝観料 三〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観

午前九時～午後四時

参拝料 二〇〇円

(月曜休館)

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

山報百壹号をお届けします。川澄祐勝前貫主が毎月共、直々に編集に携り、編集人をはじめ担当職員を叱咤し、充実した誌面作りを心砕かれました。

杉田純一(しんじゅん)新貫主体制の元新たに編集人も交替し、前貫主の目指した「皆さんに楽しんでいただけるお寺」を旨として引き継いでいきたいと思っております。変らぬご信助の程、お願いいたします。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別格本山 高幡山金剛寺

電話 (042)591-0032(代)

FAX (042)593-3038

発行人 黒川高徳

編集人

年4回発行・再生紙使用

初詣境内御案内図

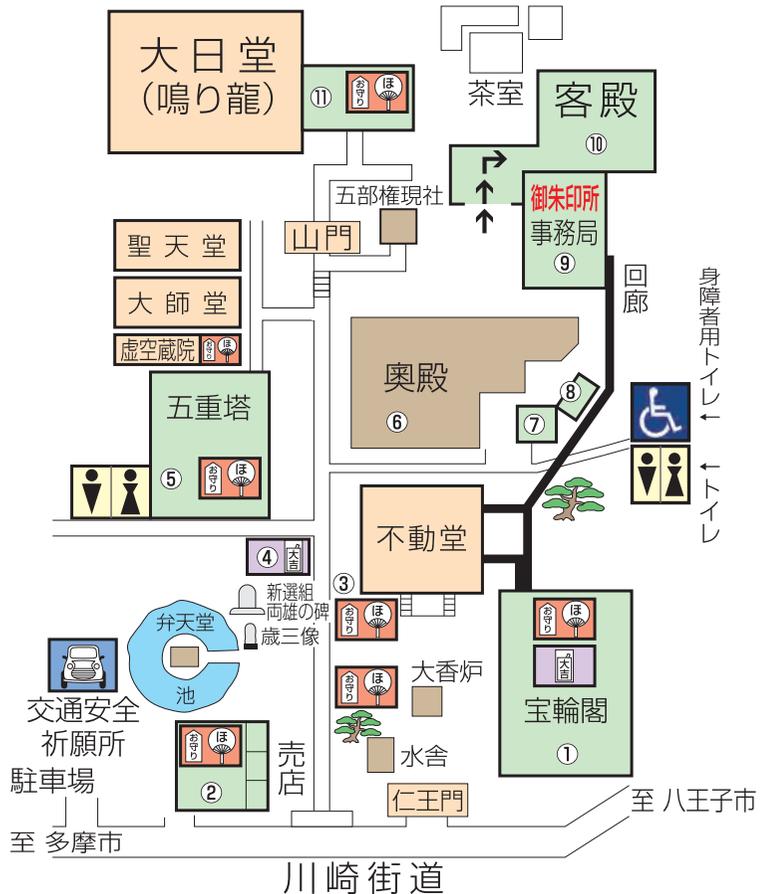
(諸堂・お守授与所・記念碑・休憩所)

- 不動堂……毎日護摩修行・丈六不動三尊参拝
(どなたでも自由に参加頂けます)
- 奥殿……寺宝展会場(指定文化財多数展示)
重文不動三尊は奥殿正面から自由に参拝して頂けます
- 大日堂……鳴り龍・八福神襖絵拝観
位牌堂(歳三位牌等多数)参拝
- 五重塔……無料休憩所・釈迦三尊像参拝
(大ホール) 千体地藏堂参拝



	お守り・ほのほうちわ授与所
	おみくじ
	トイレ
	身障者用トイレ

- ① 宝輪閣
1階-護摩受付所
地階-護摩札お渡し所
- ② 交通安全祈願受付所
- ③ お守り・ほのほうちわ
- ④ おみくじ、新選組グッズ等
- ⑤ 五重塔々院
(無料休憩所、千体地藏堂)
- ⑥ 奥殿拝観受付
- ⑦ 上杉堂
(百ヶ日忌・水子供養等)
- ⑧ 納札堂
- ⑨ 事務局
(総受付・御朱印所)
- ⑩ 客殿二階
(予約元旦護摩お渡し所)
- ⑪ 大日堂拝観受付



正月参拝の方は京王線・多摩モノレール・バスをご利用下さい。
高幡不動駅下車、徒歩3～5分で境内に入ります。